

## エレクトロニクス先端融合領域若手研究者 育成プログラム

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：豊橋技術科学大学（総括責任者：榊 佳之）

### プロジェクトの概要

独創的な若手研究者育成のためにテニユアトラック制度による人材養成システム改革を実施する。G-COE 研究の発展的拠点としてエレクトロニクス先端融合研究センターを設立し、応用分野とセンシング技術を複眼的に見渡せるエレクトロニクス先端融合領域で人材を養成し、従来の学科中心の人材養成システムを改革する。また、研究推進環境を整備し、ポストは国際公募とし、採用審査は国内外の専門家を含めて公正に行う。5年終了後、学長裁量ポストで、テニユアを採用し自主的人材育成を行うとともに、テニユアトラック制度を拡充整備していく。テニユア取得後は研究能力向上のために再審査や既に導入されているサバティカル制度を活用する。

### (1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

本プロジェクトは、所期の計画どおり実施され、機関の最も強い分野で世界的知の拠点の構築を目指す取組にテニユアトラック制（以下、「TT制」という）を活用していることが評価できる。優秀な人材の確保に成功するとともに、トップマネジメントも適切であり、今後とも十分なリーダーシップが発揮され、TT制の定着に向けて更なる努力を期待する。

- ・ **国際公募・選考・業績評価**：国際公募も適切であり目標以上の成果を上げている。外国籍及び女性研究者の採用目標の各々20%も達成し、自校率も20%と公平性・透明性も十分に確保されており、高く評価できる。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：機関の特徴を活かした制度設計となっていることが評価できる。テニユアトラック若手研究者の自立的な研究環境も整備され、協働作業を促す工夫もあり、適切な年次評価とそのフィードバックもなされ十分な育成効果が期待できる。
- ・ **制度設計に対するマネジメント**：学長の指揮の下、エレクトロニクス先端融合領域若手育成プログラム推進本部とその下部組織が整備され、十分な組織運営と支援体制が確立されているほか、PDCAサイクルも活用されており、準備するテニユアポスト数についてミッションステートメントにおける5名から10名に変更するなど総括責任者のリーダーシップが発揮されていることが評価できる。
- ・ **今後の進め方における取組**：目標は明確であり、TT制の定着が十分に期待できるが、全学展開に当たって、学長裁量枠の拡大と、部局へのインセンティブなどの配慮の仕方などについて更なる工夫を加えることにより、TT制の拡大・定着を期待する。